

寺子屋稲生塾② 開拓ゆかいの行灯づくり～稲生川の歴史を感じよう～

日時：平成26年7月5日（土）9:00～12:00

場所：十和田市シティホテル

★工作屋台村 吉田紀美男村長による講義

「なぜみんなで行灯をつくるのか？～稲生川の歴史を伝える行灯のはなし～」



【吉田先生の講義から】

- ・トンネルの中を（約高さ1m50cm、幅1m80cm）ばんづるだけで掘った。距離にして、4120mのトンネルは、ここから（十和田シティホテル）イオン十和田までの長さになる。
- ・工夫した工法（片づみの工法・深堀の工法）で、何度も何度も繰り返し工事をした。
- ・稲生川ができたお祝いに高さ1.8m長さ7.2mの大打灯を作り「大打灯まつり」を行った。
- ・稲生川ができたことによって、現在は、青森県で3番目の米の取れ高になった。
- ・昔の人々の努力のおかげで、今の私たちの暮らしがある。先人へ感謝の気持ちを込めて行灯をつくろう。



★木枠の行灯づくり



ねぶた絵具で、4面の和紙に曲線や丸で模様をつけ、色の重なりやにじみで工夫しました。



★ペットボトル行灯づくり (講師 十和田市立南小学校 教諭 野坂 佳孝 氏)



★灯ろうづくり (講師 十和田市教育委員会スポーツ・生涯学習課 竹ヶ原 英樹 氏)



1 瓶のパックの側面を切り開き、色づけした和紙を巻いて完成させました。



★8月16日稲生川灯ろう流し会場での点燈式と灯ろう流し



行灯づくりや灯ろうづくりを通して、稲生川完成の喜びを感じ、先人への感謝の気持ちをもつことができました。木枠の行灯を車庫内で点燈したときの美しさに感嘆の声をあげ、自分の作品や友だちの作品をうれしそうに見つめる姿がありました。また、灯ろうづくりでは、願い事を書いて流してみたい、という声もあり、地域の行事に興味をもった子どもがいました。

当日は11名の塾生が灯ろう流し会場に足を運び、灯ろう流しを行いました。道路わきに展示した行灯（木枠行灯・ペットボトル行灯）は、幻想的に灯り、参加者を迎えました。